

家畜衛生だより 令和元年6月号

紀北家畜保健衛生所 電話 073-462-0500
紀南家畜保健衛生所 電話 0739-47-0974
紀南家畜保健衛生所 東牟婁支所 電話 0735-58-1481

牛の疾病予防対策について見直しませんか

寄生虫や微生物の感染予防や異物の誤食防止は、体重増加の促進、分娩間隔の短縮、泌乳量の増加、免疫状況の改善など牛の生産性に対して多くの良い効果があるため継続して実施する必要があります。皆さんの努力で定着している対策（駆虫、ワクチン接種等）がありますが、その中で見落とされている対策もいくつかあるので、今回改めて説明します。

◎肝蛭（かんでつ）の予防

1980年代頃までは日本で最も問題となる寄生虫でしたが、1990年代にはかなり減少しました。しかし、近年発生が増えてきており、本県でも病性鑑定で発見されています。また、出荷した場合、肝蛭により肝臓が廃棄となります。

・肝蛭とは

反芻動物の肝臓・胆管に寄生する病原性の強い大型（体長2～5cm）の寄生虫です。

・感染経路

主に稲わらや水辺の草に付着した肝蛭の幼虫を牛が食べることによって寄生します。その後の幼虫は牛の肝臓で成長し、感染後3か月程度で成虫となり産卵を開始します。虫卵は糞とともに排泄され水田や小川などで発育します。



図：肝蛭の体内移行経路
（原図：家畜寄生虫病学）

・症状

症状を示さないことが多いのですが、食欲減退、体重の減少、下痢、泌乳量の低下、繁殖障害などを呈します。一度牛に寄生すると、数年間にわたり肝臓に寄生し続けるため、牛の飼料効率・発育等に悪影響を与えます。

・治療

ブロムフェノホス製剤（アセジスト細粒）を体重 500kg あたり 25g を水によく溶かして経口投与してください。繁殖和牛は分娩後 1 か月と決めて必ず年 1 回、肥育素牛は導入時に、乳牛は乾乳期に駆虫を行ってください。また、投与により一過性の下痢、食欲不振を起こすことがあります。

・予防法

- 給与する稲わらは、4 か月以上貯蔵するか、よく発酵させたサイレージにしましょう。
- わらの根元は 15cm ほど捨てて給与しましょう。
- しっかり発酵させた堆肥を作りましょう。

◎パーネット（磁石）の投与による疾病予防

牛が針金や釘などの鋭利な異物を誤って食べてしまうと、その異物が第二胃の動きにより第二胃壁に刺さることがあります。その後、胃壁から横隔膜、心嚢（心臓を包む膜）へと異物は更に深く刺さり、その傷が化膿して炎症を起こし、ひどい場合には敗血症となり、大切に育てた牛が全廃棄となることもあります。

・疾病名

創傷性心外膜炎、創傷性横隔膜炎、創傷性第二胃炎などです。

・症状

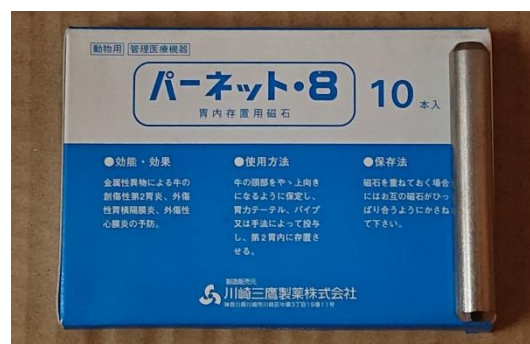
食欲がなくなる（全く食べなくなる）、胸垂の下垂、頸静脈の怒張（ふくらみ）等を呈します。

・予防法

- パーネット（直径 1cm、長さ 8cm の円筒状の磁石）を経口投与しましょう。
- 牛舎内の抜けかかった釘やボルト、ゆるんでいる針金や番線などにはいつも注意し、取り除いたり、締め直すようにしましょう。

・ほかにも・・・

- 金属以外のビニールやひも状の異物誤食などでおこる疾病は、パーネットでは予防できません。これらの異物は消化管の通過障害を引き起こし食滞の原因となるので、放置しないで速やかに取り除くようにしましょう。



気になることや不明な点がありましたら、最寄りの家畜保健衛生所までお問い合わせください。